

資料3 全国アンケート調査の結果について

勝田みな

I 質問紙抽出方法

可塑性の高い土粉を用いたどろ遊び実践の意義や価値を明らかにすることは、幼児の教育・保育の教材としての活用に道を開くものと思われる。そこで、自然保育におけるどろ遊びの全国調査を行い、全国の施設において、どろ遊びの実態調査を行うこととなった。

本共同研究メンバーのうちアンケート作成を中心に行ったメンバーが、全国47都道府県の県庁所在地とその他の市町村から各施設をリストアップすることにした。インターネットを利用して、キーワード「どろ遊び」「粘土遊び」から検索を行った。保育所、幼稚園、児童発達支援事業、運営形態である公立私立をバランスよく調査するためにも各施設2か所ずつを基本に抽出することとした。児童発達支援事業については児童福祉施設全国一覧（社会福祉法人全国社会福祉協議会全国児童養護施設協議会 HP「全国児童養護施設一覧」<http://www.zenyokyo.gr.jp/pdf/list.pdf>）から検索した。その一覧からさらに知的障害児通園施設をリストアップし抽出施設として挙げることにした。知的障害児通園施設をリストアップした理由としては、日々保護者の下から通わせて、独立自活に必要な知識技能を与えることを目的とした施設なので、幼稚園、保育所へ通う園児と通園や園生活がそれほど変わらないためである。

また、東京23区や政令指定都市など人口が多い地区はそれぞれプラス1～2か所ずつ抽出することにした。人口が多いところは施設数も多いという理由からである。よって、各都道府県につき6か所ずつが基本抽出で人口が多い地区からは9～12か所ずつ抽出することになった。

さらに、本学近隣地区にあたる地区には、全施設に調査用紙を送付することとした。本学近隣地区とは、G市をはじめ近隣地区として計8市区を決定した。全施設に送付することにした理由は、地域に根差した取り組みを周知させること、本学学生の多くがこれらの近隣地区から通っていることである。

なお、全国各地から偏りなく調査対象施設を抽出することを目的にしたが、東日本大震災の影響で施設の園庭等での活動ができないところも考えられることから、一部の地域には送付しないことにした。

抽出施設として全国526施設（保育所253、幼稚園187、児童発達支援事業86）に質問紙調査を行うことになった。そのうち近隣地区には、235施設（保育所147、幼稚園84、児童発達支援事業4）に送付した。

質問紙全国調査回答期間は平成24年6月20日から平成24年7月20日までとした。質問項目は全13項目で、回答方法は選択肢法と自由記述である。

回答返送数は全国から204施設（保育所106、幼稚園56、児童発達支援事業33、認定こども

資 料

園 1、その他 6、無回答 2) あり、回収率は 38.8%であった。また、近隣地区からは 107 施設（保育所 79、幼稚園 22、児童発達支援事業 4）あり、回収率は 45.5%であった。

II 調査結果

設問 1 施設の運営形態

公設公営	公設民営	私立	無記入・無効回答
93	14	96	1

設問 2 施設の種類

保育所	幼稚園	児童発達支援事業	認定こども園	その他	無記入・無効回答
106	56	33	1	6	2

設問 3 施設の所在地

北海道・東北	関東	北陸・中部	関西	中国	四国	九州・沖縄
14	21	125	8	16	4	16

設問 4～7 は省略

設問 8 施設で取り入れられている遊びや教育

A 言葉	絵本	劇遊び	視聴覚 (テレビやCDなど)	(※) その他
	202	159	105	24
B 音楽	うた	リズム	楽器演奏	(※) その他
	202	188	169	17
C 造形	描画	工作	造形遊び	(※) その他
	196	174	173	10
D 体育	体操	水泳・プール遊び	球技	(※) その他
	171	191	123	32
E 生活	ごっこ遊び	集団遊び	季節行事	(※) その他
	179	190	194	14
F その他	36 自由記述の内容 散歩、モンテッソーリ教具の活用、サーキット、外遊び、海(磯・砂)遊び、登山、畑・田、外国人講師による英語指導、感触遊び:豆・ゼリー・氷・スライム、自然とのかかわり、虫取り、ムーブメントプログラム、体育教室、自然保育、異世代交流保育、飼育、野菜栽培、野外活動、リズム体操、地域交流、感覚統合遊具、泥んこ保育、ふれあい遊び、親子でウォークラリー、感覚遊び(ピンポン、ボディ・			

	<p>フィンガーペインティング、新聞紙、パラシュート、こんにやくゼリー、揺れ遊び)、エコ活動、パソコン、食育(野菜の栽培・クッキング)、異年齢保育、スキンスリップ遊び、茶道、観劇会、社会見学、科学遊び、しゃぼんだま、集会、ICT教育、直接体験(自然体験)を重視した保育活動</p>
<p>(※) 各項目④その他自由記述</p> <p>A言葉：紙芝居、ペープサート、パネルシアター、言葉遊び、なぞなぞ、しりとり、手遊び、絵カード、エプロンシアター、生の観劇、絵本の家庭への貸し出し、英語、DVD、ごっこあそび、カルタ、ことばの教室、トーキングカード、伝言ゲーム、ワークブック、言語訓練</p> <p>B音楽：リトミック、体操、遊戯、MD、CD、手遊び、鍵盤ハーモニカ、和太鼓、RV、CM、ミュージックセラピー、音楽療法、年長児はピアノカ、なかよし遊びダンス、ボランティアによるコンサート、オペレッタ、鼓笛隊、ミュージックケア、ムーブメント</p> <p>C造形：新聞紙、小麦粉、パン粉、片栗粉などの素材を楽しむ遊び、七夕制作、クリスマス制作、ぬたくり、スライム、土木、小麦粉粘土、スライム、寒てんあそび、粘土、ブロック、折り紙、粘土、切り紙、染め紙、いろいろ、触覚あそび、切り紙工作、感触あそび</p> <p>D体育：リトミック、体育器具、運動全般、サーキットあそび、そりすべり、散歩、トランポリン、鉄棒、雲梯、跳び箱、なわとび、感覚統合、感覚遊具遊び、体育器具を使った遊び、指導、鉄棒、マット、のぼり棒、いろいろな鬼ごっこ、集団遊び、リズム、山登り、芝すべり、遊具、集団あそび、体育器具、固定遊具、ムーブメント、竹馬、登り棒、マラソン、吊遊具マットエア技台、自然の中での散歩、あそび、フラフープ、戸外活動、外部講師による総合的な運動遊び</p> <p>E生活：クッキング、買い物ごっこ、園外保育、キャンプ・野外で年長児が一泊、食育、交通安全指導、生活習慣の確立、異年齢クラス、交流保育、散歩、ムーブメント</p>	
<p>(※) 各項目④その他自由記述</p> <p>A言葉：紙芝居、ペープサート、パネルシアター、言葉遊び、なぞなぞ、しりとり、手遊び、絵カード、エプロンシアター、生の観劇、絵本の家庭への貸し出し、英語、DVD、ごっこあそび、カルタ、ことばの教室、トーキングカード、伝言ゲーム、ワークブック、言語訓練</p> <p>B音楽：リトミック、体操、遊戯、MD、CD、手遊び、鍵盤ハーモニカ、和太鼓、RV、CM、ミュージックセラピー、音楽療法、年長児はピアノカ、なかよし遊びダンス、ボ</p>	

<p>ランティアによるコンサート、オペレッタ、鼓笛隊、ミュージックケア、ムーブメント</p> <p>C造形：新聞紙、小麦粉、パン粉、片栗粉などの素材を楽しむ遊び、七夕制作、クリスマス制作、ぬたくり、スライム、土木、小麦粉粘土、スライム、寒てんあそび、粘土、ブロック、折り紙、粘土、切り紙、染め紙、いろいろ、触覚あそび、切り紙工作、感触あそび</p> <p>D体育：リトミック、体育器具、運動全般、サーキットあそび、そりすべり、散歩、トランポリン、鉄棒、雲梯、跳び箱、なわとび、感覚統合、感覚遊具遊び、体育器具を使った遊び、指導、鉄棒、マット、のぼり棒、いろいろな鬼ごっこ、集団遊び、リズム、山登り、芝すべり、遊具、集団あそび、体育器具、固定遊具、ムーブメント、竹馬、登り棒、マラソン、吊遊具マットエア技台、自然の中での散歩、あそび、フラフープ、戸外活動、外部講師による総合的な運動遊び</p> <p>E生活：クッキング、買い物ごっこ、園外保育、キャンプ・野外で年長児が一泊、食育、交通安全指導、生活習慣の確立、異年齢クラス、交流保育、散歩、ムーブメント</p>
--

設問9 粘土遊びとどろ遊びを実施しているか

	している	していない
粘土遊び	201	3
どろ遊び	181	23

設問10 粘土遊びについて

A 粘土を粉から遊んだことがあるか

ある	ない	無記入・無効
79	115	7

B 粘土遊びの形態

個人で遊び	集団で遊び	無記入・無効
180	106	4

C 施設単位の粘土遊びの予算について

	回答数	無記入・無効	有効数
一定の予算がある	14	17	184
予算なしまたは保護者に購入してもらう	65		
予算がないが、必要に応じて購入する	105		

資 料

年間 (円)	年間 (kg)	年間 (円)	年間 (kg)
	100 g/人数	13000	13
10000	9		32
	園児数の7割の量	1980	10
7000	100		

D 個人遊びの粘土遊びを施設活動として取り入れた時期について

5年以内	6～10年以内	11～20年以内	20年以上	無記入・無効
10	4	14	148	4

E 集団遊びの粘土遊びを施設活動として取り入れた時期について

5年以内	6～10年以内	11～20年以内	20年以上	無記入・無効
7	11	12	64	12

F 各年齢に取り入れる粘土遊びの素材と頻度について、下記の表に番号を入れてください。

	素 材			頻 度		
		個人遊び	集団遊び		個人遊び	集団遊び
0 歳	油粘土	1	0	毎日	1	0
	土粘土	1	0	週に1～3回	0	0
	紙粘土	1	0	月に1～3回	5	5
	小麦粘土	13	8	年に数回	8	3
	(※) その他	2	1	(※) その他	2	1
	1 歳	素 材			頻 度	
		個人遊び	集団遊び		個人遊び	集団遊び
油粘土		4	0	毎日	2	0
土粘土		2	0	週に1～3回	3	3
紙粘土		4	2	月に1～3回	14	10
小麦粘土		37	22	年に数回	22	10
(※) その他		7	5	(※) その他	3	2
2 歳	素 材			頻 度		
		個人遊び	集団遊び		個人遊び	集団遊び
	油粘土	23	5	毎日	4	0
	土粘土	5	1	週に1～3回	9	5
	紙粘土	8	7	月に1～3回	23	14
	小麦粘土	46	28	年に数回	24	16

資料

	(※) その他	5	4	(※) その他	3	2
3 歳	素 材			頻 度		
		個人遊び	集団遊び		個人遊び	集団遊び
	油粘土	98	30	毎日	25	2
	土粘土	13	12	週に1~3回	44	13
	紙粘土	22	15	月に1~3回	24	18
	小麦粘土	32	28	年に数回	18	17
	(※) その他	6	5	(※) その他	13	4
4 歳	素 材			頻 度		
		個人遊び	集団遊び		個人遊び	集団遊び
	油粘土	103	36	毎日	28	3
	土粘土	13	14	週に1~3回	47	16
	紙粘土	27	17	月に1~3回	21	15
	小麦粘土	28	26	年に数回	18	24
	(※) その他	5	5	(※) その他	14	5
5 歳	素 材			頻 度		
		個人遊び	集団遊び		個人遊び	集団遊び
	油粘土	106	40	毎日	28	5
	土粘土	19	17	週に1~3回	41	13
	紙粘土	36	22	月に1~3回	27	17
	小麦粘土	27	27	年に数回	19	25
	(※) その他	6	5	(※) その他	13	6
(※) その他の自由記述						
個人遊びの素材：寒天、パン粉、おから、片栗粉、おがくず、パン栗粘土、エコ粘土、ソフト粘土、子どもの欲求による						
個人遊びの頻度：室内遊び時に自由に、年に1~2回、自由な活動の中で、興味を持った時に行ったり、クラス活動で行ったりしている、個々に自由、自由遊び時、月5回、季節による、随時、6~9月にかけて時々						
集団遊びの素材：寒天、パン粉、おから、片栗粉、おがくず、パン栗粘土、食無害材料						
集団遊びの頻度：自由な活動の中で、興味を持った時に行ったり、クラス活動で行ったりしている、年1回、季節により変動（夏場少なめ冬場多め）、子どもたちの展開次第、雨天時						

G 粘土遊びを展開する際に最も重視する理由について

親子活動の促進	異年齢交流の促進	室内活動としての展開	個性や身体性の発達	無記入・無効
4	7	144	85	6

H 保育者に対して粘土遊びの研修に取り組んでいるか

している	していない	無記入・無効
12	180	9

設問 1 1 どろ遊びについて

A どろの素材

庭の砂や土	(※) 購入した土	(※※) その他	無記入・無効
165	25	7	5
(※) 購入した土 赤土、だんごダネ、くちや、砂場の砂、築山にしている、砂場用川砂、光触、媒抗菌砂入り砂、山の土、黒土、さば土、まさ土、島尻土、洗い砂 中目、特別にブレンド、まき土、畑用の土、越前荒土、焼物づくりの時の泥			
----- (※※) その他の自由記述：砂場、粘土、田んぼの土、別の土を検討中			

B 購入した土を使う場合に施設単位の量と予算

量 (kg)	予算 (円)	量 (kg)	予算 (円)	量 (kg)	予算 (円)
	10000	500	50 ?		25000
60	4000	年間 2 t		500	10000
2000	60000	1920	6928	2m ³	市の購入
1 人 1 kg		4000 g	52000	20t 車 1 台	20000
4 t	24000		10000		4~50000
2 t	15000	10 t	500000	2 t	8000
2000	14000		1 個 350 円	100	10000
	20000				

C どろ遊びを施設が設定したプログラムとして取り入れた時期について

5 年以内	6~10 年以内	11~20 年以内	20 年以上	無記入・無効
14	18	19	113	17

D どろ遊びを取り入れた理由について

家庭でできない遊びの提供	異年齢交流の促進	季節感の体験	個性の発達	無記入・無効
--------------	----------	--------	-------	--------

資料

143	27	121	56	7
-----	----	-----	----	---

E だろ遊びの頻度

週に1~3回	月に1~3回	年に数回	(※) その他	無記入・無効
48	25	39	57	12

(※) その他の自由記述

雨上がりや砂場での盛り上がり方次第、6、7、8月の天気の良い日（6月中心）、季節夏の遊び、夏季のみ、毎日、外あそびの際自由に取り組む、6月のみ週に1~3回、夏の水あそびの時、天候によるが6月中に実施、天気が良ければ毎日、天候に応じて、天気次第、晴れの日、夏期のみ、夏期のみ毎日、天気の良い日、六月、子どもたちの達の様子をみながら、季節により異なる、気温が高い日様子を見てできる時は毎日、ほぼ毎日、初夏~初秋のみ、5~9月に週に1~3回、6月限定週2回、季節的、個人による、季節関係なく、子どもがしたい時にいつでも、自由な活動の中で興味をもった時に行っている、冬以外ほぼ毎日、季節により朝の自由あそびで毎日、6月は週1~3回、季節に応じて、自由に、夏期に多く行っている、夏場に週1~3回、夏に週1回位、6月中のみ、夏季の間、6月は毎日、時期によって異なる、夏場は毎日、夏季に数回、決めていない日常的に、夏場の季節など、朝の好きな遊びの時間に砂場にて、季節による、夏季月に3~4回、自由遊びの時間にほぼ毎日、やれる機会を逃さないように天気にもよる

F だろ遊びを取り入れる年齢について

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	無記入・無効
13	41	84	163	166	159	3

G だろ遊びが子どもの発達に有効だと思われる項目について

①言語力	②身体力	③協調力	④集中力	⑤創造力	(※) ⑥その他
31	83	92	125	162	25

(※) ⑥その他の自由記述

精神安定、子の発想力、感覚、受け止められる感覚を広げる、過敏性の除去、感性を磨く、楽しい、達成感・充実感、感触、開放感、心の解放、感覚や感触を通して情緒の安定、発散、五感を刺激、治療の効果、全てにおいて、感覚機能、感覚受容、感覚の発達、感性、皮膚刺激感触、意欲づくり、継続する力、だろの感触

H 保護者に対してだろ遊びの説明を行うか

個別説明	文書による一斉説明	説明会による一斉説明	行わない	無記入・無効
40	81	24	55	1

I 保育者に対してだろ遊びの研修に取り組んでいるか

している	していない	無記入・無効

14	163	4
----	-----	---

設問12 土の粉からどろ遊びへ、さらに粘土遊びへ展開していく活動に取り込んでいるか。

取り組んでいる	取り組んでいない	かつて取り組んだことがある	無記入・無効
10	154	18	22

設問13 ご意見があれば、ご自由にお書きください。

自由記述（記述された表記は回答された時点でのもの）（回答数 21）

○砂・水・泥は自由な遊びであると思います。クラス活動とか施設活動で行うものではないと思います。自由な中で子どもは様々な感触を楽しみ、自分の世界で遊ぶものです。創造や創造力におどろきますが、このアンケートの内容は理解できかねますので、十分な返事をさしあげることができません。ノーベル賞学者は幼稚園の砂場で学んだことが多いと言われますが、砂場の遊びはそうだと思います。粘土遊びはあまり好みません。

○粘土遊びの集団遊びの定義がイマイチよくわからなかった。

○どろあそびよりも園庭でのすなあそびが多い。天気の良い日はほぼ毎日のようにしています。

○どろんこ用のパンツ、Tシャツを持ってきてもらってやる時は思いきりさせています。征服の時は、砂場に水をもち込まない約束。体操？でも状況によっては、素足にしたりその他限度をつくることもあります。

○園庭 9000 平方の内に、粘土質の土が出る場所があり、子ども達は、粘土場から自由に取り出して遊んでいる。自由な創造性を育てる遊びとして重要な意味をもっている。

○当園はゼリー→小麦→粘土→砂（乾）→砂（水気）→黒土（乾）→黒土（水・どろ）でやっています。また田んぼでのどろ遊びも含まれます。ですので後半になればなるほど造形的なことではなく感覚や楽しさにシフトしていきます。

○ねん土やどろあそびではなく、スライム遊びを実施することが多い。

○危険のないよう園庭を整備する事と終わった後の体の衛生清潔を心がける

○水、泥あそびは乳児、幼児にとって欠く事の出来ない保育素材です。

○どろ遊びの幅が広すぎるため、解答にとまどった

○どろあそびの定義が不明で、回答しにくい項目がありました

○粘土遊びまでは、年齢的に十分でない所もある。粘土質の土なので、1年を通じて、後半には泥団子づくりに発展したり、ものづくりに発展していつている（3歳児以上）

○粘土の土の粉は使っていませんが、園庭の土から“光るだんご”作りには取り組んでいます。

○どろ遊びは教材としてとらえず、子どもにとって大切なもの、空気や食物のように子どもにとってなくてはならないものにとらえています。

○特別なものとして、どろ遊びや粘土遊びを取り組んでおらず、特にどろ遊びは日々の中で毎

資 料

日のようにやっているので、質問にうまく答えられなかったと思います。

○この調査を受けて、粘土、どろ遊びの研修を行いたいと思いました。

○日々の遊びの中で取り入れてはいるが、とりたてて年間計画としての取り組みはしていない。遊びを発展させるためには、きちんと計画を立て年齢の目標をもって取り組めるとよいと思っている

○保護者向けの泥遊びや粘土遊びの説明文は特にありません

○粘土どろ以外にも片栗粉、米、かんてん、氷など五感で楽しめる感触遊びを多く取り入れています

○0、1歳児のみの乳児専門の保育園です。感触遊びを大切に1年を通して遊んでいます。その都度保護者に様子を写真入りのかべ便りで伝えたり園便りで様子と大切にしたいことを伝えていきます。幼児と取り組み方が少し違うので個人か集団かというとらえ方が難しいです。

○どろ遊びは稲を育てる活動の一環としての取り組みで土づくりの意識で「どろんこ遊び」をしている。触覚（手、足→全身）やバランス感覚の広がりを期待した活動でもある。年1回田植えの時期の行事として季節感を感じてほしいと2才児から年齢に応じた経験の積み上げを期待している。

(名古屋経営短期大学子ども学科 講師)